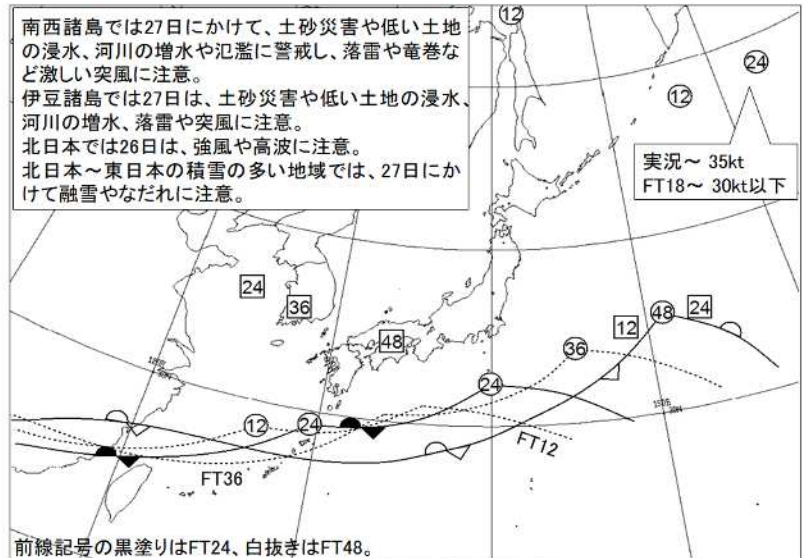


1. 実況上の着目点

- ① 千島近海には 500hPa 5520m 付近のトラフに対応する低気圧があつて東北東進。この低気圧から前線が日本の東～日本の南を通り、南西諸島付近にのびている。
- ② 南西諸島付近では①の前線に向かって下層暖湿気が流入し、雷を伴い1時間60ミリ以上の非常に激しい雨を解析、メソサイクロンを検出。
- ③ 北日本では、①の低気圧や前線と日本の東に中心を持つ高気圧との間で、気圧の傾きが大きくなっており、やや強い風が吹いて、波が高くなっている所がある。



主要じょう乱解説図

- ④ 衛星画像(ダスト画像)では、日本海～北日本にかけて黄砂の飛来が確認できる。

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

- ① 26日は、1項①の低気圧が千島の東へ進む。また、アムール川下流域の500hPa 5280m付近の寒冷渦に対応する低気圧がオホーツク海へ進む。これらの低気圧と1項③の高気圧との間で気圧の傾きが大きい状態が続くため、北日本では、強い風が吹いて、波が高くなる所がある。強風や高波に注意。
- ② 東シナ海の1項①の前線上に、26日夜までに低気圧が発生。この低気圧は、27日は奄美地方を通過し、日本の南へ進んで不明瞭になる。この低気圧や前線に向かって、850hPa θ_e 336K以上の下層暖湿気が華南方面と沖縄の南から流入するため、南西諸島では27日にかけて大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨が降り、大雨となる所がある。土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒し、落雷や竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 26日夜には、日本の南の2項②の前線上にキンクが発生し東北東進。27日朝までにキンク上に低気圧が発生し伊豆諸島付近を通過、27日夜にかけて日本の東へ進む。この低気圧や前線の影響で、伊豆諸島では27日は大気の状態が不安定となり、雷を伴った強い雨の降る所がある。土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水、落雷や突風に注意。
- ④ 日本の東に中心を持つ高気圧の縁辺をまわる暖かい空気の影響により、北日本～東日本では27日にかけて850hPaの気温が平年と比べて10°C程度高い状態が続く。多雪地では、融雪やなだれに注意。
- ⑤ 東日本では26日は、北日本では27日にかけて、1項④の黄砂が広い範囲で飛来が予想されている。視程が10km未満、所によって5km未満となる見込み。視程の悪化による交通障害に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSM基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項②や③の低気圧や前線の位置について、初期値変わりやモデル間の予想の差が大きい事に留意。

4. 防災関連事項 [量的予報と根拠] ①大雨ポテンシャル(18時からの24時間): 沖縄120mm。②波浪(明日まで): 北海道3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表予定はない。